

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ユニット1)

事業所番号	0673000634		
法人名	有限会社和のどか		
事業所名	あつとホームのんき		
所在地	山形県東田川郡三川町大字猪子字大堰端336		
自己評価作成日	令和 3年 9月 13日	開設年月日	平成 16年 12月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・家庭的な雰囲気の中で利用者様のペースに合わせて過ごせるよう支援しています。
- ・敷地内にある畑と一緒に野菜を作り、収穫し調理しています。
- ・季節を感じるメニュー(芋煮、おはぎなど)と一緒に考え作り提供しています。
- ・主治医による定期的な往診。急変時の往診など医療機関と連携を図り安心して過ごして頂けるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 10月 22日	評価結果決定日	令和 3年 11月 8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者・家族等の思いや意向を大切に、どうしたら喜んでもらえるかを第一に考え、出来ることはして自ら自立に繋がるよう支援しています。毎月の研修で認知症の理解を深めながらケアの質や技術の向上を図り、また毎月行う防災訓練は暮らしの安心・安全に繋がっています。散歩で隣接保育園児に手をふり声掛けし、運営推進会議での地域代表との意見交換などを通して信頼関係を築いています(ボランティア交流、地域避難訓練への参加、オレンジカフェ開催等は今年コロナ禍のため中止)。農作業で収穫した野菜や季節の行事食を取り入れ食事を楽しんでもらい、利用者も出来ることを手伝っています。穏やかにその人らしく生活できるよう職員全員で支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念があり、内部研修にて職員に周知している。	法人理念をふまえてユニット毎に「我が家のように心地よく楽しく過ごせるよう支援します」「利用者様が安全・安心に暮らせるよう支援します」と理念(目標)をつくっている。認知症の理解を深めながら自立に向け出来ることは自分でしてもらい、リラックスして過ごせる環境の中でその人らしく暮らせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、地域とのかかわりを持ちにくい状況ではあるが東郷小学校、いのこ保育園、散歩、地域の避難訓練等地域と関りながら生活を送っている。	コロナ禍のため地域との交流は自粛しているが保育園児や小学生とは散歩途中であいさつを交わしたり手を振ったりして繋がりを大切にしている。永年培ってきた地域との信頼関係を継続して大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの為地域とのかかわりを持ちにくい状況ではあるが町内会長、民生委員へ広報を配布し理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染状況をみながら開催か文書開催判断し行っている。また、ご利用者様の家族や地域の方からの質問や要望があった際は後日、又は次回開催時に答えられるようにしている。	町健康福祉課長、地域代表3名、家族代表3名から出席してもらい隣接の「グループホームのんき」と合同で開催している。コロナ感染状況により文書開催も含めて状況報告や事業所取組みについて説明し、メンバーより地域避難訓練や防災情報・コロナ対応、面会などの意見があり運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場などで随時情報交換を行っている。また、毎月ご利用者様の動向をメールで伝えている。	運営推進会議に於いてコロナ対応への感謝の言葉やワクチン接種状況の説明、また文書開催の提案などのアドバイスをもらい協力関係を築いている。また毎月利用者入退所の動向などや生活保護利用者の状況をメールで伝え日頃より連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>玄関に施錠せずご利用者様一人一人の傾向を把握しながら自由に入出りできる環境を提供している。虐待防止、身体拘束委員会による研修を行い虐待、身体拘束にあたる行為を再確認している。</p>	<p>事業所全体で身体拘束・虐待防止委員会を毎月開き、身体拘束のないケアについて学び、研修を通して職員全員に周知している。施錠しないこと、帰宅願望者への対応、言葉遣い、事故やヒヤリ・ハット事例の検討などで利用者・家族等の安心に繋げている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設全体の会議で研修を行い虐待、身体拘束について学び実際のケアに繋げている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設全体の会議で研修を行いご利用者様個々のケースに合った対応など、職員が中心となり理解を深める為その都度話し合っている。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>新型コロナウイルスの為、現在施設見学は行っていないがホームページやパンフレットにて施設内の様子をお伝えし、家族の不安や疑問、心配事を確認しながら利用申し込みの記入をお願いしている。</p>	/	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の場にて家族、地域、市町村の意見を取り入れるようにしている。また、施設の玄関に意見箱を設置している。年1回家族アンケートを実施している。</p>	<p>毎月の「お便り」や3ヶ月毎の「のんき便り」を通して利用者の様子を知らせている。運営推進会議や面会時(玄関での窓越しやウェブ面会)などの意見は、ホールの照明改善やコロナ状況下の面会方法など運営に反映されている。利用者からは外食の要望があるが今年には実現していない。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度、職員会議にて意見や希望を聞く機会を設けている。また、職員が意見や提案がある際、事務所やユニットにてその都度話を行っている。</p>	/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や勉強会、研修への参加奨励を行っている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の全体の会議にて認知症や介護技術などの内部研修を実施。また介護の質の向上の為、資格取得、勉強会、研修会への参加、外部研修への参加も感染状況に配慮しながら行っている。	年間計画を立て毎月事業所全体で研修を行いケアの質・技術の向上に取り組み、職員の意欲を高めている。勤務都合により不参加の時は資料で伝達している。研修報告では感想・活用について意見を求めて意識の浸透を図り、日々のケアに活かしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	インターネット、ズームを使い連絡協議会の研修への参加を行っている。交換実習は新型コロナウイルスの為、行っていない。	山形県グループホーム連絡協議会、同庄内地区ブロック会に参加し、今年は互いに顔を合わせての交流は無かったがインターネットやズーム研修を通して意見や情報交換を行い、事業所のサービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、病院、各支援センター、居宅支援事業所より事前に情報を頂き、面談時の情報と合わせて必要な援助内容の把握に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族より、利用相談を頂いた時点で困り事について尋ね、思いに共感する事に努めている。利用開始時は様子を伝えるなど特に連絡を密にとるよう心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅時と同じように生活の継続性を大切にしながら利用者様、家族と確認しながら、最適な支援を見極め対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来る事や意思を確認しながら、又、他利用者様、家族との関りも考慮しながらその人らしく過ごして頂けるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの為、現在は面会をあまり行えない状況であるが窓越し面会の実施やズームを取り入れ要望に答えている。他医療機関通院時は家族対応など家族の協力を得て関りや絆を大切にしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を行えていないが電話にて友人知人と会話をする事やはがきでの近況報告を喜んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様個々の生活歴や性格などを考慮し孤立する事のない様馴染みの関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したあとも家族からの相談は随時受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に生活歴、意向調査を行っている。本人からの聞き取り困難な際は家族からも協力頂いている。	これまでの利用者の暮らしの情報をもとに生活の中での変化や気づきを申し送りノートやケース記録に入力して、職員が毎日確認し現在の思いや意向を共有している。きめ細かい支援が利用者の満足感に繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に生活歴、環境、馴染みの暮らし方など、ご本人、家族から聞き取りを行い、ご本人が望む暮らしを支援できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活リズム、ペースを把握し心身の状態、残存能力を見極めながら、共に楽しく過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者様の現状の確認を行いながら、ご本人、ご家族の意向や要望について把握し、気づきを取り入れ介護計画を作成している。状態に変化があった際はご家族に状況をお伝えし随時プランの見直しを行っている。来所時や毎月のお便りにて状況をお伝えしている。要望がある場合には話し合う機会を設けている。</p>	<p>毎月職員間でモニタリング(観察)を行い、変化等あれば随時家族等と話し合い見直し、定期的にケースカンファレンス(担当者会議)を行いプラン更新している。利用者・家族等の思いや意向を大切にしてニーズに叶うよう作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>気づきや工夫、変化などはケース記録や申し送りにて情報共有している。介護計画に沿って実践された事を記録、見直し評価している。</p>	/		
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在は新型コロナウイルスの為、地域とのかかわりを持ちにくい状況ではあるが町内会や友人の来訪など関わられるように支援している。</p>	/		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人、ご家族様の了解のうえ、協力医による定期的な往診対応を行っている。その他の通院については基本はご家族対応としている。緊急性を要する場合には施設で対応している。</p>	<p>殆どの利用者は協力医による定期的な往診を利用し、24時間対応や隣接する同法人事業所の看護師からアドバイスをもらうなど医療連携体制を整えている。他の医療機関への通院は基本的には家族対応となっており、受診結果も共有している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>隣接する施設に看護師が常勤でいる為相談できる体制になっている。</p>	/		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご家族、医療機関、施設間で十分に話し合い、状況に合った対応をしている。入院中においても、ご家族、医療機関と連携を図り、身体状況の把握に努めている。</p>	/		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の状態に合った適切なケアの提供ができるよう要介護3になった時点で特別養護老人ホーム等の申込をして頂き重度化や終末期に向けた方針を入所時に説明している。	入居時に重度化した場合の指針を家族等に看取りは出来ないことを説明し、理解を得ている。利用者の介護度や状況変化に応じて主治医・家族等・事業所と話し合い、今後の方針を選択し統一している。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに沿って訓練している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に定期的に避難訓練を実施している。避難マニュアルに沿って避難訓練している。猪子町内会主催の訓練に毎年参加している(今年度は中止)	年間計画に沿って防災委員会を中心に毎月の自主検査と、あらゆる災害を想定した避難訓練を利用者も一緒に実施している。消防署から訓練後の指導や、今年度はコロナ禍で中止となったが町内会主催の訓練に利用者職員が毎年参加し、防災意識を高めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内研修を行い、利用者様の人格の尊重とプライバシー保護に努めている。	職員の内部研修に「接遇」を毎年取り入れ、研修後は報告書を書いてもらい日頃の支援を確認し、特に羞恥心が伴う排泄や入浴はプライバシーに配慮している。利用者一人ひとりの得意分野を発揮出来る場面を工夫し、笑顔に繋がるよう支援している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	多くの場面で自己決定が出来るようにゆっくりと穏やかに話をすすめるように心掛けている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様個々のペースで過ごせるよう配慮しその方の生活リズムに合わせたサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、理美容等その人らしい身だしなみや自分で服を選んでおしゃれが出来るように援助してる。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事、調理準備や後片付けはご利用者と一緒に行っている。希望献立や畑で採れた野菜や季節行事の物をその都度調理し楽しんでいる。	食材納入業者の栄養士によるカロリー計算と栄養バランスのとれた献立で、利用者から食材の下処理・盛り付け・配膳・片付けなどの手伝いを得て職員が調理している。収穫野菜の調理やリクエストメニュー、季節の行事食・外食(今年は自粛)などを取り入れ、楽しみな食事となっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは朝昼夕とカロリー計算のもとで調理している。水分摂取量、排泄状況、体重と比較しながら協力医の助言のもと支援している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアと義歯洗浄行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者様の排泄状況を把握し個々に合わせた支援を提供し自立につながるよう支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせた支援を実施し、日中は殆どの方がトイレを利用している。排泄チェック表を活用し、運動や水分・食事摂取量を記録して主治医の指導を受けながら排便コントロールに力をいれている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量の把握と食事摂取量の把握を行っている。排便チェック表にて確認し主治医と連携し排便コントロールに努めている。午前中に運動する機会を設けている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を好まない方、体調不良の方の対応なども考慮し日中に入浴を行っている。入浴剤を使用し少しでも温泉気分を味わってもらえるように努めている。ご本人の気分配慮し時間をずらしたり対応工夫し入浴促している。	午前と午後の時間帯に利用者の体調や希望に合わせて入浴支援をしており、拒む方には無理強いせず言葉掛けや対応を工夫している。薔薇風呂や入浴剤で変化を楽しみ、職員と1対1で会話も交えながら安全面に配慮し、ゆっくりくつろいでもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入眠パターンを把握し、個別の対応を行っている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は1つのファイルに綴じていつでも確認出来るようにしてある。薬の把握に努め、常に主治医に状態報告し管理を行っている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の得意な事、茶碗拭きや野菜の下ごしらえ、洗濯物干しやたたみもの、モップ掛けとそれぞれ分担し家事活動を行い活性に繋げている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルスの為、外出も制限があるが、ご本人の希望を聞き畑に行ったり、施設周辺の散歩、ドライブ等を行っている。	今年はコロナ禍で利用者の安全を優先して外出を自粛しているが、畑や近隣の散歩に出かけ外気浴を兼ねて気分転換を図っている。降りないドライブを再開し、海岸や紅葉を車窓から眺めて季節の移り変わりを味わっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理については、ご家族とご本人、職員と話し合ったうえで対応し決めるようにしている。必要な物はその都度対応している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用、ご家族の了解のもと電話対応している。ご家族からの電話は随時取り次いでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間ではご自身のペースでソファで過ごされたり、馴染みの方の隣で談笑され過ごされている。光や温度等配慮しご利用者様が居心地よく過ごして頂けるよう努めている。	ユニット間に中庭があり、窓越しに見える植物や景色と壁面に飾られた掲示物から季節が感じられる。温・湿度管理や換気に留意しながらホールでは夏祭りやレクリエーションを行ったり、ソファに座ってテレビ鑑賞や馴染みの人との会話など利用者は自分のペースで思い思いに過ごしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外にもご本人のペースで好きな居場所にて過ごせるように努めている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ、思い思いの品々を居室に置いている。家族や本人が話し合いをしながら準備している。	ベッドや布団など使い慣れた物を自由に持ち込み、配置は利用者と話し合いながら身体状況や動線の安全面に配慮して決めている。清掃は出来る利用者と職員が一緒にし、自宅のように居心地良く過ごせるよう支援している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりの設置にて安全に移動でき、食堂と居間の空間を工夫している。夜間は不安軽減を図り、足元灯をつけて対応している。			